

一

問一

ア

問二

た め い き

問三

ウ

問四

I 菜々子との約束のこと

II 忘れてた

III 葉子のことが大好き

問四(完答)

問五 例

タ カ く ん も タ カ く ん ば か り 大 好 き な マ マ も 大 嫌 い 。

問六

ウ

問七

ウ

問八

イ・オ

問八(完答)

二

問一

死 か ら の 距 離

問二

ウ

問三

I オ

II ア

III イ

IV エ

問四 最初

空 気 を 読 み

最後

け い い 評 価

問五

B

イ

C

ア

問六 最初

足 の 引 っ 張

最後

れ ま せ ん 。

問七

a

イ

b

ウ

問八 最初

う ま く い か

最後

が 芽 生 え る

問九

V

エ

VI

エ

問十

イ

問十一

農 耕 が 始 ま る 以 前 は コ ミ ュ ニ テ イ を 重 視 し て 、 そ の 中 で

生 き 残 る た め に 利 他 的 な 精 神 が 必 要 だ っ た が 、 「 財 産 」

に よ る 格 差 も 生 ま れ た こ と に よ り 、 全 体 に 対 す る 貢 献 度

を 評 価 す る 基 準 を 作 る 必 要 が な く な っ て し ま っ た 。

80

100

問四・六・七・八・九それぞれ(完答)

三

①

神

②

鳥

③

論

④

鼻

⑤

腹

四

①

制裁

②

庁舎

③

古巣

④

再燃

⑤

紅潮

⑥

首脳

⑦

習慣

⑧

粉

⑨

映

⑩

練

大問	中間	小問	世田谷	中野	八王子	明治
一	問一		3	2	3	2
一	問二		4	3	4	3
一	問三		4	3	4	3
一	問四		5	5	4	3
一	問五	内容①	1	2	2	2
一	問五	内容②	1	2	1	1
一	問五	表記	1	2	1	1
一	問六		5	5	5	3
一	問七		5	5	5	3
一	問八		5	5	5	3
二	問一		5	5	5	5
二	問二		4	4	3	3
二	問三	I	1	1	1	2
二	問三	II	1	1	1	2
二	問三	III	1	1	1	2
二	問三	IV	1	1	1	2
二	問四		5	5	5	5
二	問五	B	2	2	3	3
二	問五	C	2	2	3	3
二	問六		5	5	5	5
二	問七		5	5	5	5
二	問八		5	5	5	5
二	問九		5	5	5	4
二	問十		5	5	4	5
二	問十一	内容①	1	1	1	3
二	問十一	内容②	1	1	1	3
二	問十一	内容③	1	1	1	3
二	問十一	表記	1	1	1	1
三	①		1	1	1	1
三	②		1	1	1	1
三	③		1	1	1	1
三	④		1	1	1	1
三	⑤		1	1	1	1

大問	中間	小問	世田谷	中野	八王子	明治
四	①	制裁	1	1	1	1
四	②	庁舎	1	1	1	1
四	③	古巣	1	1	1	1
四	④	再燃	1	1	1	1
四	⑤	紅潮	1	1	1	1
四	⑥	首脳	1	1	1	1
四	⑦	習慣	1	1	1	1
四	⑧	粉	1	1	1	1
四	⑨	映	1	1	1	1
四	⑩	練	1	1	1	1
			100	100	100	100

【一】 物語文

重松清の「さかあがりの神様」(「日曜日の夕刊」(新潮文庫)に収録)から出題しました。弟(タカくん)が生まれ、少し寂しい思いをしている娘・葉子のために、父・真一がさかあがりの練習を手伝うお話です。真一自身も、かつて母親の再婚相手である義父に同じようにさかあがりを教えてもらおうという経験がありました。(今回の問題文では明かされませんが、タイトルの「さかあがりの神様」はこの義父のことです。)重松清さんの作品の心理描写は、直接ではなく登場人物の表情、細かいセリフの言い回し、情景などに表れるのが特徴です。一つ一つの言葉を大事にして、丁寧に読み取っていきましょう。

問一

A1

知識 関係つけ 比較

① 次の行の「明日からまた寝顔しか見られない娘の、ちよつとしたしぐさや表情の変化を追いかける」という部分から、真一の葉子に対する愛情が感じられる選択肢を選びます。正解は、アになります。それぞれの意味は、ア「目を細める」は「嬉しいことや可愛らしいものに対して、微笑むこと」、イ「目を皿にする」は「目を大きく開けて、物を必死で探す様子」、ウ「目を盗む」は「人に見られないようにこっそり何かをすること」、エ「目を喜ばせる」は「美しいもの、素晴らしきものを見て楽しむ」、オ「目を据える」は「怒った時などに一点を見つめる状態」という意味になります。慣用句の中でも「体の一部」を使ったものは入試頻出です。必ず意味までセツトで覚えるようにしましょう。

問二

B2

知識 関係つけ 推論

② の前後から、このときの葉子の気持ちからあてはまる言葉を考えます。② の前に、「水曜のテストで鉄棒は終わりだもん。今度は跳び箱」、「まいっちゃうよね」と葉子のセリフがあり、② の直後に「葉子は跳び箱も苦手だ。去年は、四つん這いになった真一の背中を跳び箱代わりにして特訓したのだった」と書かれています。そこから、葉子は「跳び箱をしたくない」、「特訓しなければならぬのか」という落胆や失意などの気持ちが読み取れます。そこから、「交じりに笑う」につながるひらがな四字の言葉を考えると、「ためいき」が当てはまるとわかります。

問三

B1

知識 置換 比較

葉子がケイスケについて「生意気で乱暴者で……」大袈裟に顔をしかめながら悪口をまくしたてます。「まくしたてる」は、「激しい勢いで、息もつかせず立て続けにしゃべる」という意味です。「苦笑い」は、非常に不愉快だと思っているにもかかわらず、しかたがなく笑ってしまうことや、困惑や照れ、緊張などの感情から笑ってしまうことという意味があり、「いなす」には、上手に受け流すという意味があります。これらの言葉の意味と、――部③の直後に、真一が「『だけどさあ』とからかう顔と声で言った」とあるので、「困惑しつつ」、「面白がっている」と書かれているウが正解だとわかります。アの「心配している」、イの「あきれつつ」、エの「確かめようと必死になっている」から、それぞれ間違いだとわかります。

問四

B1 理由 関係づけ

「つまらない嘘」をついた理由を問う問題ですが、誰がどのような嘘をついたのかを本文中から探す必要があります。3ページの11行目からの「ママに言われてたんだーいやあ、まいったなあ」という真一のセリフを踏まえて該当する箇所を探していきます。また、抜き出し問題については、後の言葉をヒントにするのが鉄則です。I は、葉子の前にしていることなので、3ページの5行目の「菜々子との約束のこと」が正解です。II は、菜々子との約束を「かそうとした3ページの12行目の「忘れてた」があてはまりません。最後のIII は、主語が「菜々子も」であることに注目します。正解は、5ページの3行目の「葉子のことが大好き」が抜き出せます。

※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解となりますので、気をつけましょう。

問五

B2 具体化 推論

葉子の本音を前後の文章の流れから分析して記述します。部⑤の前の行の「でもね、あたし、ケイスケのこと考えてなかったの」というセリフから、「大嫌い」の対象がケイスケ以外ということがわかります。さらに、真一が葉子の頭を両手で抱くことによって、その言葉を言わせたくない相手は誰か? ということを絞り込んでいきます。ママやタカくんという個人が嫌いなわけではないので、二人の関係性が嫌いだとわかるようにまとめましょう。

※ 設問の指示や字数・指定文字に従っていないものは、不正解とします。ただし、解答の説明に誤字脱字・内容に過不足がある場合は、減点します。

問六

B1 理由 比較

真一が葉子を抱きしめながら、葉子以外の人のことを考えていることを踏まえます。5ページの5行目にある「義父のことを、思う」という一文に注目しましょう。8行目からの「いまなら……わかる」、「子どもが寂しいときは、親だつて寂しい」、「それがやっとわかる歳になった」という一連の表現から、娘である葉子の気持ちに親としてよりそうことによって、義父の本当の気持ちができるようになったという内容の選択肢を選びます。Aについては、義父の愛情を感じられていない点、イは、義父が一人で寂しかったという点が本文から読み取れない、エには義父に対する表現そのものがないので、ふさわしくありません。

問七

B1 具体化 比較

登場人物の人物像に関する問題です。「本文の」という問題文の条件がありますので、本文全体から読み取るようにしましょう。アは「普段は元気で明るくて元気が良い」、イは「義父に愛されていなかった」、エは「親子の間であれば愛情は成立するはずだと信じている」という部分が本文中には書いていませんので、ふさわしくありません。ウは2ページの17行目からの「葉子って、あなたが思っているのより、ずーっとおとななんだから」という妻の菜々子のセリフから、真一よりも葉子のことを理解していることがわかります。

問八

B2 抽象化 比較

本文全体の主題を考える問題です。真一が義父の愛情を知ることができたことで、親としての悩みも解消され前向きになったというハッピーエンドであることを抑えましょう。イは、5ページ目の5行目からの場面で、真一は義父の自身への思いをおとなになつてから理解することができ、きつと葉子も寂しいと思つてはるはずだと感じていたことが「葉子を強く抱きしめた」という部分から、読み取れますので、正解だとわかります。オは、1ページの2行目からの「明日からはまた寝顔しか見られない娘のくしつかり見ておきたい」という部分から、真一が普段は忙しくてなかなか娘が起きている時間に帰宅できないことと、子どもとの時間がとれるときには、成長を見守りたいと真一が思つてることが読み取れますので、正解だとわかります。アは、「接し方の難しさを感じている」、ウは「真一と同じあまのじやくな性格である娘」、エは「打開しようともがいてる」、カは「家庭内の意思疎通を計ろうとしている」という内容がふさわしくありません。

三 論説・説明文

小林武彦「なぜ人だけが幸せになれないのか」(講談社現代新書)から出題しました。私たちは便利な世の中に生きていながら、なぜか幸せを感じられない瞬間が多くあります。東京大学の小林武彦教授は、700万年かけて進化してきたヒトの遺伝子と、わずか1万年で激変した社会環境との間に生じたギャップが、現代人の幸福感を阻害していると分析しています。生物学的価値観からの「幸せ」というものは何か?というテーマについて「自分」として読み取るように心がけると理解が深まります。

問一

B1 具体化 関係づけ

④の後の「を大きくするために」と同じ内容が、9ページ1行目にありますので、正解は「死からの距離」が抜き出せます。「死からの距離(を保つ)」は本文全体のテーマでもありますので、確実に見つけておきたいところです。

問二

B1 関係づけ 比較

選択肢アより正しい用語を選ぶ問題です。Aの前の「進化の過程」という言葉から、ウの「生物学」が正解となります。アの「統計学」は、膨大なデータを分析し、データの特徴や規則性・不規則性、データどうしの関連性を割り出す学問です。その他、イ「物理学」は、物体の知己学、光と音、電気と磁性、熱などの物理現象を扱う学問、エ「歴史学」は、対象とする国や地域について、過去の史料や建造物を通して、歴史の事実やそれらの関連を扱う学問、オ「経済学」は、私たちが豊かな社会を築くために、限られた資源をどのように用いれば良いかなどを考える学問です。

問三

B1 関係づけ 比較

IからIVにあてはまる接続詞を選ぶ問題です。Iは、「集団で『食うことと、食われないこと』を達成する」と「しつかりとコミニティに属している必要がある」と「同じ内容なのでオ「つまり」。IIは、「よくやつているヒト」と「足を引っ張っているヒト」のどちらかという内容なのでア「あるいは」。IIIは、海の小魚からの内容が具体例の内容なのでイ「たとえば」。IVは、「社会構造や生活様式も劇的に変化しました」と「遺伝子のままで現代を生きているのです」が反対の内容なので、エ「ところが」が正解となります。

問四

B1 具体化 関係つけ

どのような努力をすれば、ヒトは集団の中で評価されるのかを本文中から探します。11ページの19行目から「ヒトは集団の中で生き残るために、少しいい評価になるように努力するようにになりました」とあります。その部分から、《 》にあてはまるように四十四字で抜き出しましょう。

※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解となりますので、気をつけましょう。

問五

B1 関係つけ 比較

B と **C** にあてはまる言葉を選ぶ問題です。

解く時に、迷う選択肢がある場合は、いったん保留にしておき、自信のあるものから埋めるようにすると正答率が上がります。Bは、直前に「空からは鷹^{たか}、海からは大きな魚の餌食^{エサ}になります」という言葉から、イ「緊張感」。Cは、直前の「いろんな不都合が生じています」と直後の「得られにくい」という関連から、ア「幸福感」が正解となります。

問六

B1 具体化 理由

「足の引つ張り合いに対する嫌悪感」を持つ理由を抜き出す問題です。条件の「――部②より前から」という部分を読み飛ばさずに抜き出しましょう。二文続きを抜き出す問題ということにも注意が必要です。10ページの7行目から「ですので、そのような足の引つ張り合いやすい行為^{こうい}、そういうことをやるヒトに対して、本能的に嫌悪感を持ちます」と書かれています。そして、「ですので」から、直前の「足の引つ張りれません。」が正解だとわかります。

※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解となりますので、気をつけましょう。

問七

B1 関係つけ 比較

選択肢ア～エより正しい用語を選ぶ問題です。

前の「つまり」に注目すると、その前の文にインチキや不正や不道徳に対する怒りがあるので、【b】には「道徳心」があてはまるとわかります。また、①の後の一文に「正義は」とありますので、【a】には「正義感」があてはまることがわかります。

問八

B1 抽象化

700万年のヒトの進化の歴史の中で、ヒトはどのような生き物に進化していったのかを抜き出す問題です。――部③の「そういう」から直前に書かれている「嫉妬心^{しつと}」についての内容だとわかります。そして、700万年は「嫉妬心」は「落ち込みをプラス転換^{てんかん}するプロセス」だったが、現在は「うまくいかない」と落ち込み、同時に嫉妬心が芽生える「ようになった」と書かれています。後は、そこから、「生き物」にあてはまるように二十字以上二十五字以内で抜き出しましょう。

※ 書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解となりますので、気をつけましょう。

問九

B1 関係つけ 比較

選択肢ア～エより正しい副詞を選ぶ問題です。Vは直後に

「自分だけで食べるような『抜け駆け防止』にもなっていたのでしょう」から、「こつそり」があてはまることがわかります。また、Ⅵは、前後の「真面目に」、「蓄える」から、少しずつという意味の「こつこつ」があてはまることがわかります。

問十 B1 具体化 比較

選択肢ア～エより「ギリギリ的な生き方」について、あてはまらないものを選ぶ問題です。問題文の「あてはまらない」という部分を読み飛ばさないように気をつけましょう。また、「あてはまらない」については、学校によって言い回しや強調の仕方が違いますので気を付けておくと良いでしょう。――部④がある段落は、イソップ物語の「アリとギリギリ」の話にたとえて説明されています。――部④の直後に「天災や悪天候が続くとより多く溜め込んだ『アリの』なヒトが有利になります」とあり、次の文には、「あまり溜め込んでいない『ギリギリ的』なヒトは、『アリの』なヒトから借りたりします」と書かれています。つまり、「アリのなヒト」は将来のことを考えて備えておくヒトで、「ギリギリ的なヒト」は今のことをだけを考えて備えておかないヒトのたとえだとわかります。よって、「自分の得意なことは自分でやって、苦手なことは他人に任せて分担する」という内容が書かれているイがあてはまらない選択肢だとわかります。

問十一 B3 抽象化 推論

――部⑤の「その物差し」が何を指し示しているのか、「失ってしまった」とはどういうことなのか、同じ段落に書かれている内容を八十字以上百字以内でまとめる記述問題です。これまでは、コミュニケーションを重視して、利他的な精神が必要だったが、

農耕が始まり定住化することになって財産ができ、格差が生まれた結果、コミュニケーション全体の中での貢献度が評価されなくなってしまったという内容を八十字以上百字以内で書くという良いでしょう。内容①は、「その物差し」を指し示す内容、内容②は、その物差しがどうなったのか書かれているか、内容③は内容①と②にねじれがないかなどを見えています。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字・脱字、解答の説明に過不足がある場合は、減点します。

三 A1 知識

――(一)に適切な漢字を補って、慣用句やことわざを完成させる問題です。文章題の中で出てきた際にも、この言葉の意味をしっかりと覚えておくかどうかで正確に内容がつかめるかどうかが変わってきます。できなかったものをしっかりと覚え直しておきましょう。せっかく覚えていても、漢字で書けなかったら部分点をもらえることはまずないということもおさえておきましょう。

四 A1 知識

漢字の問題は、――部の前後をしっかりと確認することが、どの学校を受験する場合も必須です。特に、同音意義語や同訓異字は要注意です。間違ってしまった漢字は、意味も含めて覚えておきましょう。